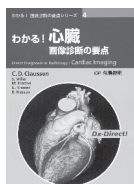


わかる！画像診断の要点シリーズ 4

わかる！心臓 画像診断の要点



監訳：似鳥 俊明

B5変 頁368 2009年
定価 6,090 円(本体 5,800 円+税 5%)
[ISBN978-4-89592-603-4]
メディカル・サイエンス・インターナショナル刊

最近の画像診断の目覚ましい進歩は、循環器診療を大きく変えようとしている。例えば、この数年、わが国において急速に普及した 64 列 MDCT による冠動脈 CT アンギオグラフィは、その施行数が、ついに年間 30 万件に達したといわれている。心臓超音波検査、心臓核医学検査、カテーテルアンギオグラフィに加えて MDCT や MRI は、いまや循環器診療において、なくてはならない存在になりつつある。

しかし、これら画像診断のハードおよびソフトの開発や臨床研究のスピードが著しく早いため、なかなかその成果を完全に理解し、駆使することは難しい事態になりつつある。特に、発展途上にある CT や MRI については日々、新たな知見が追加され、知識は書き換えられているため、そのスピードについていくことは、容易なことではない。このことは画像を用いて日々の診療に当たる循環器科医にとってばかりでなく、画像の撮影を管理し、所見をつけ、依頼主にレポートを返す放射線科医にとっても同様であろうと思われる。

メディカル・サイエンス・インターナショナルより刊行された「わかる！画像診断の要点シリーズ 4:わかる！心臓 画像診断の要点」は、まさに、このような循環器画像診断の今を生きていくための極めて実用的なガイドブックである。

まず、本書では、循環器領域の必要十分な疾患、病態、手術例が取り扱われ、胸部 X 線、心臓超音波、心臓核医学、カテーテルアンギオグラフィに加えて、CT や MRI の典型的な画像が随所に用いられている。時に加えられるシェーマが理解を助けてくれる。簡潔な記述は、疾患の概要、画像診断の要点さらに臨床事項に及び、放射線科医、循環器科医の双方にとって親切的な構成となっている。

本書の原著はテュービンゲン大学の放射線科医と内科医によって書かれたものであるが、症例の豊富さをうかがわせる画像の数々に驚かされる。また、本書の監訳を担当された杏林大学医学部放射線医学教室 教授の似鳥俊明先生は、わが国における循環器画像診断の中心の一人であり、私自身も日々、教えを受けている先達である。この翻訳が、先生の教室員の皆さんによってなされたことに感心しながら、似鳥先生のこれまでの豊富な御経験がこのコンパクトな一冊に凝縮されているのを感じた。

これから循環器領域を学んでいこうとする研修医、もう一度勉強を始めようと考えている放射線科医、循環器科医にとって、まさに時機を得た、コンパクトなガイドブックである。